

<実施例3> 技能中心の日本語プログラム

報告者：五十嵐恵美（愛知県立御津あおば高等学校）

実施校の制度 課程：全日制 普通科（国際類型、普通類型） 昼間定時制 普通科（普通類型、日本語類型）
単位履修の仕組み：単位制
対象生徒：2年次 タイプC（滞日期間5年）
実施形態：一斉授業、5人
主たるプログラム：プログラムC
実施した科目：「特別の教育課程」による日本語指導科目「日本語ⅡA」（2単位）
担当者：日本語指導担当教員／日本語支援者／母語支援者

3.1 プログラム編成の考え方

(1) 教科学習に参加するための日本語の技能を高める

対象の生徒は、学校生活を行う上で困らない程度の口頭のコミュニケーション力も、簡単な日本語の読み書きの力も身に付けている。しかしながら、教科学習においては、日本語の知識や技能がまだ十分ではないために、内容を理解し、自身の考えをもって質問をしたり、内容についての話し合いに参加したりすることが困難である。そこで、まとまった内容の話の聞いて理解する技能（聴解）と一定量の文章を読んで理解する技能（読解）、そして、その内容について日本語で質問したり応答したりする技能を高めることを狙いとし、技能を中心にプログラム（Cタイプ）を編成した。

教科学習への参加を目指す日本語の学習であるため、読解・聴解の理解スキルを高めるための活動では、教科学習で必要となる基礎的な語彙・表現を含む教材を利用することにした。加えて、将来は国内で進学をしたり仕事をしたりすることがイメージされる生徒であるため、日本の文化や日本社会の問題に関するトピックを設定して活動を組み立てることにした。

実施校の外国人生徒等の受入状況・日本語指導

本校は全日制（国際類型、普通類型）と昼間定時制課程（普通類型、日本語類型）を有する単位制の高等学校で、「Diversity 多様性」「Inclusive 包括性」「Global 国際性」「Sustainable 持続可能性」をコンセプトとして、様々な特色ある教育活動を展開している。

本校生徒の特徴として、入学試験に「外国人生徒選抜」を実施しており、全校生徒数の28%程度が外国にルーツのある生徒であるということがあげられる。また生徒の母語も9言語と多岐にわたっている。来日時期、滞日年数、母語の力も様々であるため、育みたい「ことばの力」は同様であるが、身につけさせたい「日本語力」に関しては「個別の指導計画」を作り、生徒個々に目標を設定している。

全日制では、「特別の教育課程」として日本語指導を実施しており、各学年で、次の科目を開設している。

1年次：「日本語ⅠJ」「日本語ⅠA」「日本語ⅠB」

2年次：「日本語ⅡJ」「日本語ⅡA」「日本語ⅡB」

3年次：「日本語ⅢJ」「日本語ⅢA」「日本語ⅢB」

（各科目が育成を目指す日本語の力は、次の(2)育みたい「ことばの力」を参照のこと）

加えて、各学年で放課後に「日本語タイム」として、単位分の「特別の教育課程」による日本語指導を行っている。上記科目については、昼間定時制の生徒も履修することが可能である。

定時制では、「特別の教育課程」として、教科に関する日本語を学ぶ科目を開設している。

1年次：「歴史の日本語」「数学の日本語」

2年次：「地理の日本語」「英語の日本語」

(2) 育みたい「ことばの力」とプログラムの組み合わせ（卒業までの4年間）

当該生徒は学校生活を行う上で困らない程度の日本語力は身につけているが、教科学習や進路を考えたり調べたりする日本語力やスキルがまだ十分ではない生徒が多数を占める。その生徒に、卒業までの3年間で日本語の授業を通して自分の考えを表現し、将来を選択する力を育みたいと考えている。そのため、日本語の授業を「日本語を使って自己実現を行う場」として位置づけ、「特別の教育課程」として日本語指導の科目を、次の図のように日本語プログラムを設計して実施している。

本プログラムは、図の2年次のプログラムCに当たる。

1年次

「日本語ⅠJ」(プログラムA、B)：学校生活の場面に文型を入れた学習を通して、基礎的な文型や語彙を学ぶ。

「日本語ⅠA」(プログラムC)：教科に関連のある内容を「読む、聴く」活動を通じて、教科学習に必要な文型や語彙を学び、「話す・書く」活動を通して教科を学ぶ際の質問のパターンや答え方を学ぶ。

「日本語ⅠB」(プログラムD)：課題解決型学習を通して、社会を批判的に読み解き、その問題解決のために日本語で働きかけ、行動する方法を学ぶ。

2年次「日本語ⅡJ」「日本語ⅡA」「日本語ⅡB」(1年次同一名科目の中級版)

3年次「日本語ⅢJ」「日本語ⅢA」「日本語ⅢB」(2年次同一目科目の上級版)

<日本語学習の全体像：日本語プログラムの組み合わせ>

	1年	2年	3年	4年
プログラムA「生活のための日本語」	→			
プログラムB「日本語基礎」	→	→	→	
プログラムC「技能別日本語」	→	→	→	
プログラムD「日本語プロジェクト」	→	→	→	

枠部分：紹介するプログラム

(3) 外国人生徒等の教育・支援活動(学校全体の取り組み)

日本語指導の他、教科学習支援として、1年次には必修科目の取り出し授業、2年次には学校設定科目の取り出し指導を実施している。その他、日本語の授業、教科の取り出し授業、総合的な学習の授業に、母語による支援を行っている。キャリア支援は、外国人生徒等のみを対象としたものではないが、かれらの進路を想定してゲストを招くなどの工夫をして実施している。

<卒業までの指導・支援の全体>

	科目(単位)／具体的な支援内容
日本語指導 (単位)	特別の教育課程としての日本語指導 ①放課後 1～3年「日本語タイム」日本語能力試験対策(1単位) ②授業時間内(各科目2単位) 1年次:「日本語ⅠJ」「日本語ⅠA」「日本語ⅠB」 2年次:「日本語ⅡJ」「日本語ⅡA」「日本語ⅡB」 3年次:「日本語ⅢJ」「日本語ⅢA」「日本語ⅢB」
教科学習支援	【全日制】1年 必修科目の取り出し授業 2年 学校設定科目「理系国語」の取り出し授業

	【昼間定時制】1年 特別の教育課程「歴史の日本語」「数学の日本語」 2年 特別の教育課程「地理の日本語」「英語の日本語」 やさしい日本語で各教科を学ぶ。
母語支援	日本語授業、取り出し授業、「総合的な探究の時間」での通訳 面談の通訳 保護者への通知の翻訳 「世界を知ろう発表会」(ルーツ国の紹介)
キャリア支援	1年次 ゲストスピーカー講演 2年次 職業体験
その他	部活動への参加支援 日本語スピーチコンテスト出場の支援

3.2 実施した日本語プログラム 授業名「日本語ⅡA」

4技能の総合的な育成のために、年間70時間の授業を、市販の教材を利用した聴解活動と読解活動、話し合い活動で組み立てた。

年間指導計画の前半(第1時～36時)は、3時間を1ユニットとして日本の文化・社会問題に関する聴解活動とやさしく言い換えられたニュース記事の読解活動を中心に構成した。4ユニット終了毎に、日本の偉人に関する長い文章の読解活動を配置した。読解活動の事前事後に、内容に関して知っていることについて話し合ったり、文章を読んで知った事柄について、話し合っ自分の考えを表現する活動を織り込んだ。後半(第37時～70時)は、聴解活動から徐々に長文読解を中心とした活動へと切り替えて構成してある。全体として、インプットを理解する聴く・読む技能と、その内容に対する感想や自身の考えを話し合ったり簡潔に文章に表したりするアプトプット(表現・産出)技能を関連付けて発達させるプログラムとした。

市販教材として主に2種類を利用している。『毎日の聞き取り plus40 上・下』(凡人社)は、生徒が関心を持ちそうな日本の文化や身近な社会的問題をトピックにした聴解教材であり、中上級向けのもので、生徒のレベルにも適している。また、『THE GREAT JAPANESE 30の物語中上級』(くろしお出版)は、著名な日本人30名に関するストーリーの読解用の教材であり、聴解学習の後に日本の文化・社会問題について話し合うのに適している。

① 目標

教科学習の基礎となる語彙や表現について知り、日本の文化や社会問題に関する音声情報や文章を理解できるようになり、その内容に関して話し合い、自身の考えや意見をまとめて書いたり話したりして表現することができる。

②年間指導計画(1科目分)

1 科目名・ 単位数(時 間)	日本語ⅡA 2単位(70時間)		
2 対象生徒 6人	滞日歴:2～5年。全日生徒1名、昼間定時制5名の合同授業。 日本語の力:日本語能力試験 N5レベルから、日常会話は問題ないレベルまで 様々な日本語力の生徒が在籍している。 母語の力:生徒によって異なるが、一定の母語の力があり、翻訳アプリを使用して日本語の意味を調べるなどができる。 教科等の力:母語の支援があれば在籍学級の授業に参加できる生徒から、基礎学力が身につけていない生徒まで様々な生徒が在籍している。		
3 履修学年	2年		
4 目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等

	トピックをめぐるまとまりのある話を聞いて理解し、学習の基礎となる語彙や表現方法を知り、1000字程度の文章を読んで理解できる。	日本の文化や社会に関して、価値観や考え方を自国やその他の国と比較しながら相対的に理解し、考えたことを伝え合うことができる。	相互の文化やコミュニケーションの違いとその背景を知ろうとし、文化的多様性に価値を見出して積極的に関わろうとする。
5 プログラムのタイプ	<input type="checkbox"/> A(生活のための日本語) <input type="checkbox"/> B(基礎日本語) <input checked="" type="checkbox"/> C(技能別日本語) <input type="checkbox"/> D(日本語プロジェクト) 主なプログラム:◎ 接收するプログラム:○		
6 主なリソース	タブレットで、インターネット上の情報収集、翻訳アプリ利用等を行う。 テキストとして次の教材・ウェブサイトニュースを利用する ・『毎日の聞き取り plus40』上・下(凡人社)(以下、『聞き取り』とする) ・やさいちウォッチ(以下、『やさいち』) https://watch.tsutaeru.cloud/entries/20240527122031.html ・NHK やさしいことばニュース NEWS WEB EASY(以下『NHK』とする) https://www3.nhk.or.jp/news/easy/ ・『THE GREAT JAPANESE 30の物語中上級』くろしお出版(以下『30の物語』)		
7 指導計画(シラバス)			
時	トピック・内容／主な活動／語彙・表現など		
第1～13時 (13時間)	身近な事象や日本の文化に関するトピックに関し、語彙・表現を学び、そのトピックの音声教材を聴いて理解する(聴解活動)。その後、関連のある、やさしい日本語で書かれた10行程度のニュースを読んで、自分の考えをもって話し合う(読解活動)。 ユニット1 聴解 『聞き取り』 2.目の錯覚 読解 『やさいち』 富士山を見えなくなりました 【語彙、表現】 五感、感覚、感じる、～によって影響を受ける ユニット2 聴解 『聞き取り』 5.ライオンですか、犬ですか 読解 『やさいち』 外国人のために食事の材料を絵で伝える 【語彙、表現】 ～といわれている、～されている、石像、守護 ユニット3 聴解 『聞き取り』 6. 世界で一番早く朝が来る国 読解 『NHK』 ペットの看護師 【語彙、表現】 日付変更線、～わけではありません、～をもとにして ユニット4 聴解 『毎日の聞きとり』 8. 日本人の名字 読解 『NHK』性的マイノリティのカップルのための制度がはじまる 【語彙、表現】 名字、○人中○人、○パーセント、～通り、～からきています (由来)		
第13～18 (6時間)	日本の映画製作に功績のあった人物の物語を読み、映画製作に関わるエピソードや、映画で表現したかった価値やメッセージを読み取り、その内容についての質疑応答を		

	<p>行い、その人物や映画に関して感想を述べ合うことを通して、映画への理解を深める。また、この活動を通じて、日本語能力試験 N2程度の語彙、文法を理解する。</p> <p>ユニット5 『30の物語』 12. 黒澤明</p>
<p>第 19～30 時 (12 時間)</p>	<p>日本の文化・習慣に関わるトピックに関し、語彙・表現を学び、そのトピックの音声教材を聴いて理解するとともに、自身の国や他の国の類似の文化・習慣と比較しながら、それぞれの良さについて話し合う。(聴解活動・話し合い活動) (各ユニット3時間)</p> <p>ユニット6 『聞きとり』 11. じゃんけん 【語彙、表現】 順番を決める、特色、～を～とします、～ことになります</p> <p>ユニット7 『聞きとり』 12. あいさつの思わぬ効果 【語彙、表現】 なんとなく～と感じています、中には～もいる、親しみにくい／～やすい、声をかける</p> <p>ユニット8 『聞きとり』 14. チンパンジーのアイちゃん 【語彙、表現】 ～以上に、～だけではなくて～も、表す、～を組み合わせる</p> <p>ユニット9 『聞きとり』 15. だるまさんがころんだ 【語彙、表現】 まず～、それから～、その時～、そして～、それで、鬼、数える</p>
<p>第 31～36 時 (6 時間)</p>	<p>日本のアニメ製作に功績のあった人物の物語を読み、製作に関わるエピソードや、映画で表現したかった価値やメッセージを読み取り、内容についての質疑応答を行ったり、自身のアニメに関する経験について感想を述べ合ったりして、アニメ文化への理解を深める。また、この活動を通じて日本語能力試験 N2程度の語彙、文法を理解する。</p> <p>ユニット10 『30の物語』 19. 宮崎駿</p>
<p>第 37～45 時 (9 時間)</p>	<p>日本の文化・習慣に関わるトピックに関し、語彙・表現を学び、そのトピックの音声教材を聴いて理解するとともに、自身の国や他の国の類似の文化・習慣と比較しながら、それぞれの良さについて話し合う。(聴解活動・話し合い活動) (各ユニット3時間)</p> <p>ユニット 11 『聞きとり』 16. 暖かい色、冷たい色 【語彙、表現】 グループに分ける、～に応用される、～のに対して、つまり～というわけです</p> <p>ユニット 12 『毎日の聞きとり』 17. どんなストレスに弱い？ 【語彙、表現】 ～わけではありません、ストレスに強い／弱い、人間関係、耐える</p> <p>ユニット 13 『毎日の聞きとり』 18. こちら110番。事件ですか、事故ですか。 【語彙、表現】 緊急、事件／事故、効果が現れる、電話が繋がらない／つながる、連絡をとる</p>
<p>第 46～51 時 (6 時間)</p>	<p>再生医療の発展に功績のあった日本の医学者の物語を読み、開発におけるエピソードや、医療の発達に対する開発者の考えやメッセージを読み取り、内容についての質疑応答を行ったり、感想を述べ合ったりして、再生医療への理解を深める。また、この活動を通じて日本語能力試験 N2程度の語彙、文法を理解する。</p> <p>ユニット14 『30の物語』 29. 山中伸弥</p>

第 52～57 時 (6 時間)	日本の文化・習慣に関わるトピックに関し、語彙・表現を学び、そのトピックの音声教材を聴いて理解するとともに、自身の国や他の国の類似の文化・習慣と比較しながら、それぞれの良さについて話し合う。(聴解活動・話し合い活動) (各ユニット3時間) ユニット 15 『毎日の聞きとり』 21. 回転寿司 【語彙、表現】 ～ないわけではない、～まま、行列ができる、解決する、少なくない ユニット 16 『毎日の聞きとり』 25. 地震に強いビル 【語彙、表現】 地震対策、建物の構造、柱、費用、吸収する
第 58～69 時 (12 時間)	アンドロイド技術の発展に功績のあった日本の科学者の物語を読み、開発におけるエピソードや、技術発達による社会への貢献に対する開発者の考えやメッセージを読み取り、内容についての質疑応答を行ったり、感想を述べ合ったりして、アンドロイド技術への理解を深める。また、この活動を通じて日本語能力試験 N2程度の語彙、文法を理解する。 ユニット 17 『30の物語』 30. 石黒浩 日本のアイヌ文化やアイヌ語の保存・継承に功績のあった研究者の物語を読み、文化・言語継承活動におけるエピソードや考え、メッセージを読み取り、内容についての質疑応答を行ったり、感想を述べ合ったりして、少数民族や言語を保持することの重要性への理解を深める。また、この活動を通じて日本語能力試験 N2程度の語彙、文法を理解する。 ユニット 18 『30の物語』 26. 萱野茂
8 評価方法	授業内での発言、ワークシート、発表原稿

3.3 授業実践例 (年間指導計画のユニット14)

①目標

知識及び技能:再生医療に関する語彙、知識を知り、その発達に貢献した医学者の物語を理解することができる。

思考力・表現力・判断力等:再生医療技術を医療に利用する場合の倫理上の問題について考え、倫理的に問題だと判断したことを、簡潔に文章に書くことができる。

学びに向かう力・人間性等:考え方や立場の違いによって捉え方や判断の異なる問題に関し、日本語で積極的にコミュニケーションを行い、相互に理解しようとする。

② 学習指導計画: 50分×6コマ

	時	分	活動	支援・指導のポイント 教科等
導入	1	5	本単元の目標を確認する。 再生医療とは何かを知る。医療の問題点を考える。	何を考えるのか、どんな答えを導き出すのかをイメージできるようにする。 その際、宗教や価値観を否定するものではないことを伝える。
		10	山中伸弥氏について、教師の説明を聞いて知る	
		15	語彙の確認 語彙・表現:IPS 細胞、ES 細胞、医療、臓器の呼び名	医療に関する専門の語彙が多いため、支援員の支援を受けながら確認をする。

展開		20	プレタスク(事前の活動) 自国の医療の状況について話し合う。 「あなたの国ではどんな病気が多いですか」 「50年前と今は、医療はどんなことが変わったと思いますか」	難しい言葉が多いため、支援員の支援を受けながら確認をする。
	2	30	本文を聴く、読む 指導者が範読し、読めない漢字にルビを振る。ペアになり、一段落ごと読み合う。	読み合うペアに配慮する。(漢字習熟度が同じレベルで組む)
		20	文章の内容について理解する1 概要に関する問いに答える 例)「山中伸弥教授は体の細胞から初めてIPS細胞を作ることに成功した」	文章の概要の理解を目的とし、Yes/No質問で全体的な理解ができているかを確認する。
	3	50	文章内容について理解する2 文の理解を確認する質問に答える 例)「それに対して」のそれは何ですか。 「思います」は誰が思いますか。	正確な理解を目的とし、文の主語がだれか、また、指示しが何を指しているかなどを確認する質問をする。
	4	30	倫理的問題について考える トロッコ問題を考え、文化、立場の違いで倫理的判断に違いがあることに気づく。 「倫理とは、人が守るべきこと、モラルのことです」	トロッコ問題: 暴走するトロッコの進路を自身の手で切り替えて5人を救うか、何もせずに1人を救うかを選択するという、道徳的判断・価値観を問う思考実験課題の一つ
		20	考えを話し合う ①再生医療についてどう思うか(グループ) ②再生医療の他に、倫理的に問題だと考えることを話し合う。	話し合いでは、他人の考えや価値観について否定しないで聴くことを、約束ととする。
5	50	考えをまとめる ①②で話し合ったことを基に、簡潔に文章にまとめる(5行程度)。	学習した語彙・表現を利用できるように、語彙リスト等を参照するように支援する。	
まとめ	6	45	発表および他者評価 ・自分が書いたものを発表する。 ・他者の書いたものを評価する。	評価観点を確認してから発表する。他者評価では必ず良い点も含めるよう指示する。
		5	まとめと振り返り 他者評価をみて、次の学習で何を目標とするか、具体的に挙げる。	振り返りとして、評価の観点に対応させ、得られた知識、考え、気づいたこと、参加態度に関する問いを立てる。

③授業で利用した資料例

読む前に①

a.有能 b.医療 c.心臓 d.発揮する e.進歩する f.教授

(1) 体の一部で、血液を体、全体に送る仕事をしている。

(2) 大学で教えている先生。

(3) 薬や技術を使って病気や怪我を治すこと。

(4) 技術や社会などがよい方向に変わっていくこと。

(5) 持っている力を外に表し出すこと。

(6) すばらしい能力を持っていること。

考えをまとめよう

(2) 医療の中で、再生医療以外に倫理的に問題だと考えられていることがありますか。それはどんな問題ですか？

【問題】
クローン羊の問題。

【どのような問題があるのか】
・技術が悪いことに使われる。

クローン羊の
写真。